

高糖度ミニトマトの有望品種について ～高糖度完熟出荷に適した葉かび病耐病性品種の選定～

1. はじめに

本県では、冬季から春季にかけてミニトマトの長期促成栽培が行われており、完熟出荷の高糖度ミニトマトによるブランド産地が形成されています。しかし、主力品種の「キャロル7」は葉かび病への耐性を持たないため、産地では葉かび病の発生が問題となっています。このため、高糖度完熟出荷に適した葉かび病耐病性品種について検討しました。

2. 試験方法

(1) 葉かび病耐病性品種の果実特性

供試品種：「ルビーラッシュ」、「千果99」、「TY百花繚乱」、「MKS-T804」、「ラブリーさくら」、「TSX-110」、「サンチェリーピュア」、「キャロルパッション」

対照品種：「キャロル7」

耕種概要：播種日2013年7月16～19日、接ぎ木日8月15日（台木「Bバリア」）、鉢上げ日8月28日、定植日9月17日、うね間230cm、株間40cm、条間45cm、2条植え、基肥N-8kg/10a（ペレット687）、追肥月1回N-1kg/10a（OKF-2）

調査概要：10月29日および12月25日に、それぞれ開花花房をマーキングし、78日後に1品種5果実を採取して調査しました。

(2) 葉かび病耐病性品種の食味アンケート調査

調査概要：2014年3月に各品種について収穫適期の果実を採取し、食味アンケート調査を行い、その結果から果実品質の評価を行いました。

- ・調査対象：印南町のミニトマト部会員およびJAみなべいなみ職員17名
- ・調査方法：日高地方において通常のミニトマト品種として栽培されている「サンチェリーピュア」を基準品種とし、他の2～3品種を加えた計3～4品種を1セットとし、すべての品種を供試するよう3セットを、品種名を隠した状態で供試しました。

3. 試験結果

(1) 葉かび病耐病性品種の果実特性

果実サイズは、「キャロル7」、「ルビーラッシュ」、および「TY百花繚乱」では、いずれの収穫時期でもやや小さく、「ラブリーさくら」で大きい傾向が認められました。その他の品種では、1月に大きく、3月に小さくなる傾向が認められました（データ省略）。

糖度は、すべての品種で1月収穫果実と比べて3月収穫果実で高まる傾向が認められました。品種間の比較では、「ラブリーさくら」および「キャロル7」、次いで「ルビーラッシュ」が高く、「サンチェリーピュア」が最も低くなりました（図1）。

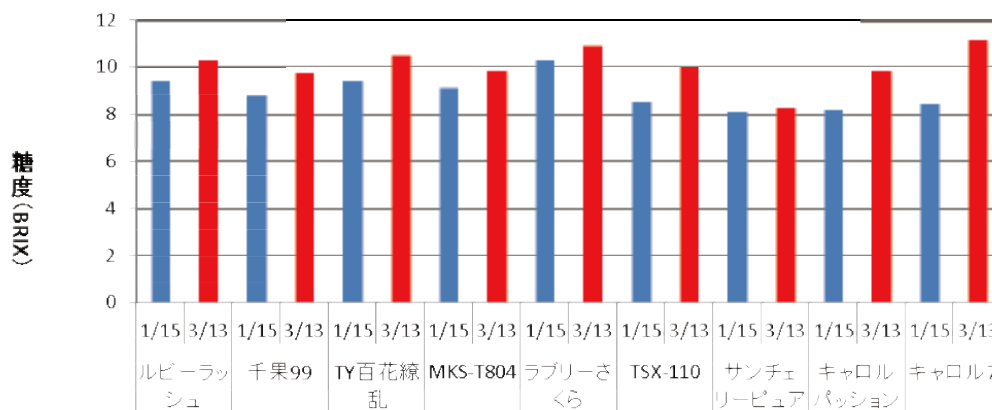


図1 供試品種の時期別糖度

(2) 葉かび病耐病性品種の食味アンケート調査

「キャロル7」は、すべての項目において「サンチェリーピュア」より評価が高く、特に果色、甘みと酸味のバランスおよび旨味について高評価となりました。「ルビーラッシュ」、「千果99」、「TY百花繚乱」、「ラブリーさくら」では、すべての項目で「サンチェリーピュア」と同等以上となり、特に「ラブリーさくら」では、甘みと酸味、旨みについて評価が高くなりました。（図3）。

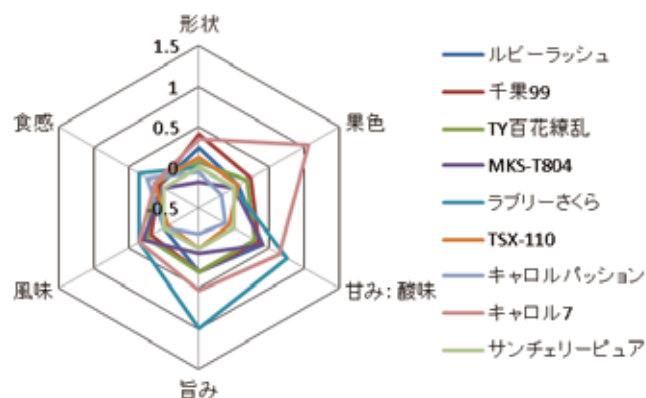


図2 供試品種の食味アンケート結果

注) 各項目とも「サンチェリーピュア」を基準品種として(0)とし、良い(+2)～悪い(-2)の5段階評価。

4. おわりに

今後は、有望な品種の収量性や品種に適した栽培方法を検討し、高糖度完熟出荷に適した葉かび病耐病性品種の選定を目指します。

(園芸部 紺谷 均)